



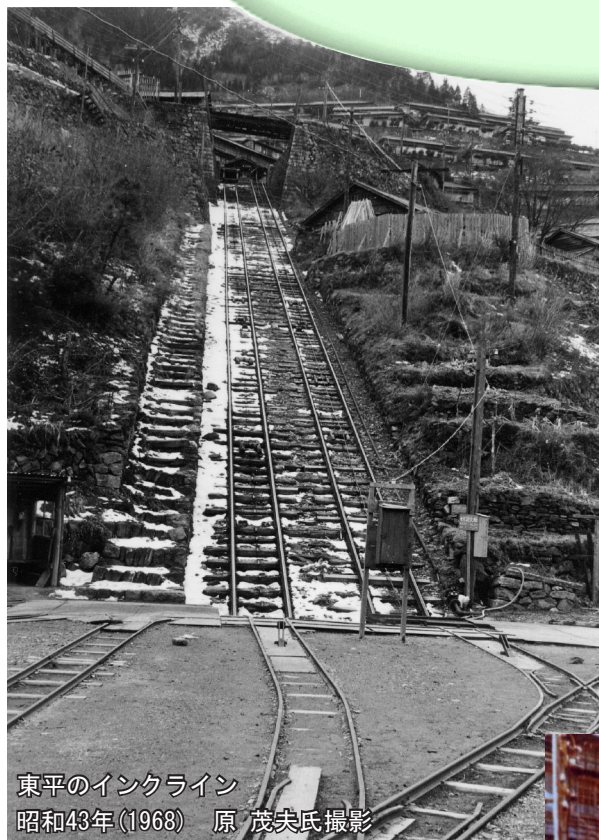
運搬



生活
文化

35
まいん

あと インクライン跡



東平のインクライン
昭和43年(1968) 原 茂夫氏撮影

インクラインの近くには索道場があり、ここから運ばれた生活物資を上方の配給所(のちに生協)に運んだり、あるいはなど建設資材を運んだりするいわばライフラインのような役割を持っていました。インクラインはこの他に、日浦・東延・星越・四阪島などにも設置されました。

インクラインは、ケーブルカーの一種のような仕組みで高低差の激しい場所へ荷物を運搬する設備です。

荷物を載せる台車が並行に2台設置され、それぞれがワイヤーで結ばれ、片方が上がれば、もう片方が下がる仕組みとなっていました。

インクラインには、人は乗ることは出来ませんでした。



インクライン機械室
昭和30年代撮影
別子銅山記念館所蔵



荷揚げの様子
昭和34年(1959)撮影 別子銅山記念館所蔵

インクラインの中間地点付近には、保育園があり、またその前には住友の社章のついた娯楽場が設置されていました。

現在は、遊歩道として生まれ変わり、春にはアケボノツツジ、秋には紅葉を楽しむことができます。



答えは、裏にあります。

どのくらい?

うさぎ飛びに挑戦?
さて、この階段は何段でしょう?



暮らしの道が

自然を楽しむ道へ